



これは便利！iOSアプリ活用術

鈴江病院 脳神経外科 七條 文雄

＜23＞コントロールセンターをマスターしよう！ーその1ー

はじめに

前回は、iPhoneの起動時の画面『ロック画面』と『コントロールセンター』の使い方を紹介させていただきました。今回はこの『コントロールセンター』の中のアプリをいくつか紹介したいと思います。

1. 『コントロールセンター』の表示法（前回の復習）

1) ホームボタンがあるiPhoneの場合（図1）

ホームボタンがあるiPhoneでは、画面下端から上方へ指でスワイプすると『コントロールセンター』が表示されます（図1 桃色□）。これは、ロック時でも、ロックが解除されたホーム画面でも、さまざまなApp使用时（図2での設定が必要）でも共通の操作で『コントロールセンター』が表示されます。



図1：ホームボタンがあるiPhoneの場合の『コントロールセンター』の呼出方法

2) App使用中の『コントロールセンター』制御の設定方法

さまざまなApp使用中でも、図2のような操作手順で、『コントロールセンター』の呼出が可能となります。

【設定】から【コントロールセンター】を選択し、【App使用中のアクセス】をOnにすると、Appの使用中に『コントロールセンター』が呼び出しできるようになります。(Appの使用中に『コントロールセンター』の呼出ができない場合は、ここをチェックしてみてください)。



図2：App 起動中のコントロールセンター呼出の制御方法

3) ホームボタンがないiPhoneの場合 (図3)

ホームボタンがないiPhoneでは、画面右上隅から下方へ指でスワイプすると『コントロールセンター』が表示されます (図3 桃□)。これも同様に、ロック時でも、ロックが解除されたホーム画面でも、さまざまなApp使用時 (図2での設定が必要) でも共通の操作で『コントロールセンター』が表示されます。



図3：ホームボタンがないiPhoneでの『コントロールセンター』の呼出方法

2. 『コントロールセンター』の表示・非表示・配置の設定方法（前回の復習）

この『コントロールセンター』の表示・非表示・配置は、図4のごとく【設定】画面の【コントロールセンター】から、【-】ボタンで非表示、【+】ボタンで表示することができます。配置は表示リストを上下に移動することにより変更することができます（図4 桃□ボタン）。



図4：『コントロールセンター』のコントロール方法

3. 『コントロールセンター』の様々なAppの紹介

コントロールセンターの中に表示される様々なAppについて紹介します。『フラッシュライト』と『カメラ』は前回紹介しましたので、他のAppを紹介します。

1) 『計算機』

a) 縦型モードと横型モード

縦型モードの場合(図5 A)は、通常の電卓のレイアウトで、横に倒して横型モード(図5 B)とすると関数電卓に変わります。

b) 縦型モードの注意点(図5 C、D、E)

縦型モードの場合も通常の電卓とは異なり、計算式通りの計算結果が表示されます。例えば、《 $3 + 5 \times 2 =$ 》と入力すると、電卓では、 $3 + 5$ から8となり、これに $\times 2$ で、16となりますが、『コントロールセンター』の『計算機』では、表示された式の通り、 5×2 から10となり、これに $+ 3$ で、13と表示されます。

消費税の計算では、税抜き価格が150円とし、消費税が8%の場合は、《150 + 8%》と入力すると、162（円）と表示されます。消費税が10%の場合は、《150 + 10%》との入力で165（円）となります。

割引の計算でも、150円の1割引であれば、《150 - 10%》と順番にキー入力をしていくと、135（円）と表示されます。2割引の場合は、《150 - 20%》と入力すると120（円）と表示されます。

なお、数字を入力中に訂正があった場合は、数字入力欄の上を右もしくは左へスワイプするだけで数字の下一桁を消去することが可能となっています（図5 D）。

また、計算結果の数字の部分を実長押しする（図5 E 赤◎）と、結果をコピーして（図5 E 黄色○）、他の操作画面にペーストすることが可能となっています。

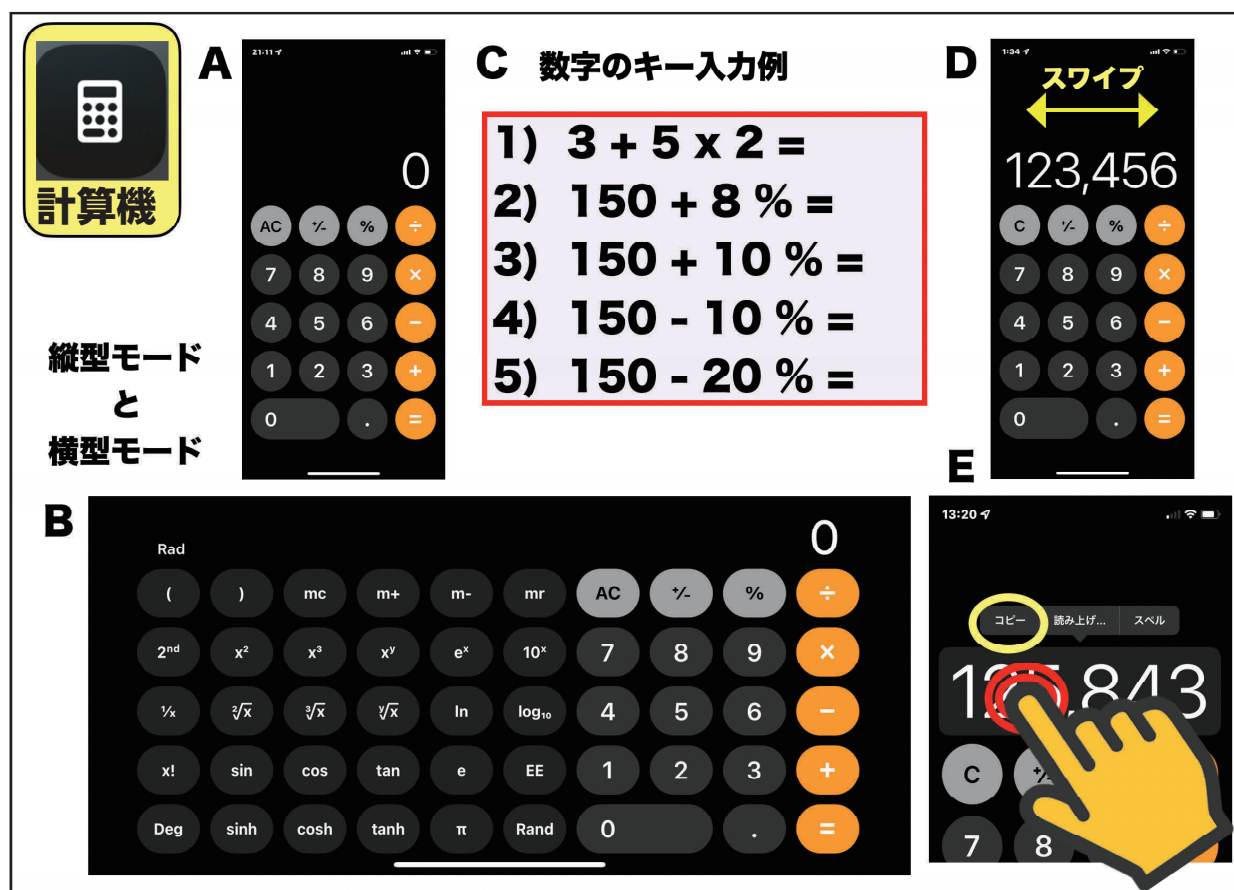


図5：『計算』Appの様々な使用方法（詳細は本文参照）

2) 『ボイスメモ』

ボイスレコーダーの機能としては、録音と再生、さらに可能であれば編集となります。以下に『ボイスメモ』での機能について紹介します。

a) 録音機能

『ボイスメモ』を起動後、【赤●】ボタンをタップする（図6 A）と「開始音」とともに録音が始まり、中止は【赤■】ボタンをタップすれば、「停止音」とともに録音は終了します（図6 B）（注：「開始音」と「停止音」はマナーモードにしておくと、消音となります）。録音中に音波形をタップもしくは上方へスワイプする（図6 B）と詳細録音モード（図6 C、D）になります。この画面では、録音休止（図6 C）と録音再開（図6 D）を利用して細かな録音調製が可能となり、右下の【完了】（図6 D）をタップすると、録音は終了します。

録音データのタイトルは、「新規録音」+「#録音番号」もしくは「記録場所の住所」+「#録音番号」として自動入力されます。この住所入力はこの2つの条件が満たされている場合に適応されます。《条件1》【設定】→【プライバシー】→【位置情報サービス】がオンになっている場合。《条件2》【設定】→【ボイスメモ】→【位置情報】がオンになっている場合。

タイトル名は、タイトル部をタップすると記録中であっても記録後でも自由にキーボード入力で変更することができます

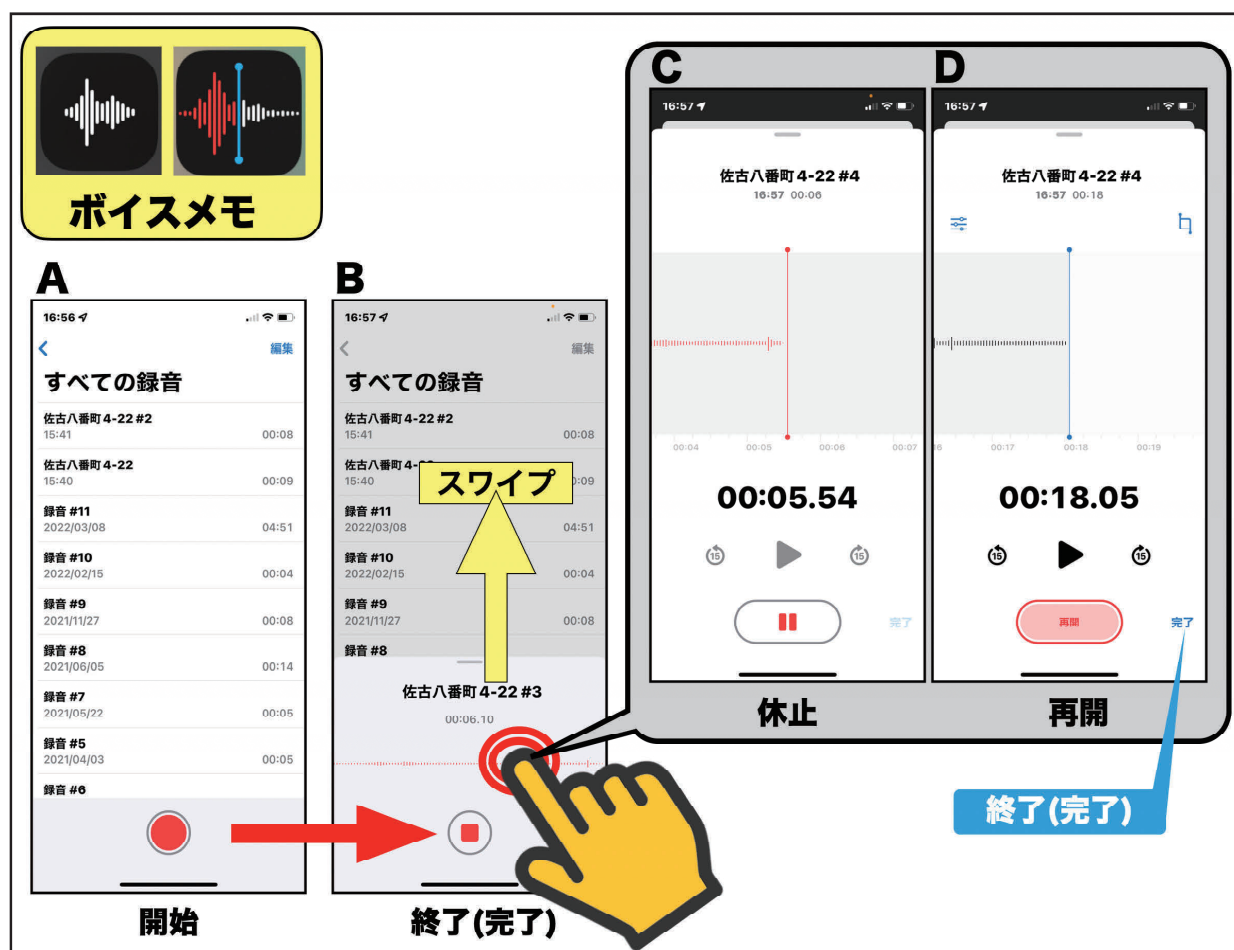


図6：『ボイスメモ』での録音機能

b) 再生と編集

録音データのタイトルをタップするとデータ再生画面が表示されます（図7 赤○→赤□）。ここで再生ボタン（▶）（図7 橙○）をタップすれば、録音データが再生され、休止ボタン（||）をタップすれば、再生が休止されます。左のオプションボタンをタップすれば、再生スピードの調整、無音のスキップなどができます（図7 緑○→緑□）。

再生画面右上の【…】（図7 桃○）をタップすると様々な音の加工法が表示されます（図7 桃□）。この中で【録音を編集】（図7 青○）をタップすると編集画面（図7 青□）が表示され、この右上のトリミングボタン（図7 シアン○）をタップするとトリミング画面（図7 シアン□）が表示され、不要部分を削除することができます。また、録音を追加したい場合には、【録音の編集画面】（図7 青□）で【再録音】をタップすると、指定した位置から録音を追加することも可能となっています。



図7：『ボイスメモ』での再生と編集機能

c) 削除と復旧と完全削除

録音データの削除には、【ゴミ箱】マークを利用します。

録音データのリスト画面では、タイトルの部分を左へスワイプすると【ゴミ箱】が表示されます。これをタップすると、1 個のデータが消去されます（図 8 A、B）。

また、録音データの再生画面（図 8 C）では、表示されている【ゴミ箱】をタップするとデータが消去されます。この方法は録音内容を確認した上での消去に有用です。

まとめて消去したい場合には、画面右上の【編集】をタップします（図 8 A、C）。表示されたリストの左端にチェックを入れた後に【ゴミ箱】をタップすると、チェックの入った項目がまとめて消去されます。



図 8：『ボイスメモ』の録音データ削除方法

救済措置として、削除された項目や誤って削除されたデータは、一定期間はiPhoneの中に保存されたままとなっています。この削除されたデータを復元するには、先ずゴミ箱の【最近削除した項目】フォルダを見つけます（図9 赤○→赤□）。これをタップすると、【最近削除した項目】がリスト表示されます（図9 青○→青□）。各項目をタップすると録音データが再生されます（図9 シアン□）。確認されたデータを復元したい場合には、左下の【復元】ボタンをタップすることにより、復元が可能となります（図9 茶○→茶□）。まとめて操作したい場合には、画面右上の【編集】ボタンをタップして、リスト欄の左○にチェックを入れます（図9 緑○→緑□）。次に画面下の【復元】ボタンをタップすると選択された項目群が復元されます（図9 桃○→桃□）。

上記の操作の中で【復元】ボタンの代わりに【削除】ボタンをタップすると、データは完全削除となり、復元はできなくなります（図9シアン□・緑□）。



図9：削除されたデータの復元方法

この削除項目の一定の保存期間は、【設定】→【ボイスメモ】→【削除したものを消去】とタップしていくと、【すぐに／1日後／7日後／30日後／しない】の中から選択できます（図10）。



図 10：削除データの保存期間の設定

d) Apple Watchとの併用

この『ボイスメモ』は、iPhoneのみならず、PC（Mac）、iPad、Apple Watchで操作が可能となっており、個人のiCloudを介して、録音データをすべてのデバイスで表示して、自動的に最新の状態に保つことができます（図11 C）。

Apple Watchでは、文字盤内に『ボイスメモ』のボタンを登録しておく（図11 A）と、文字盤上でこのマークをタップするのみで、『ボイスメモ』が起動します（図11 B）。後は、録音ボタンをタップするだけで録音がスタートします。残念ながら、一時停止の機能はありません。

Apple Watch上での録音データの削除は、データ名の部分を「右」から「左」へフリックすると【削除】ボタンが表示され、データを削除することができます。



図 11 : Apple Watch との併用例

e) 録音中に別のAppを使用する方法

『ボイスメモ』での録音中に他のAppを起動することは可能となっています（図12）。『ボイスメモ』のマイクが起動中（Onの状態）の場合は、iPhoneの画面上段のステータスバーの右上にオレンジ色のドットが表示されています。このマークが表示されている間は、マイクがOnの状態であることを示しています。また、画面の左上のオレンジ色の【時刻】欄をタップすると、『ボイスメモ』の画面に戻ります。

☆【重要点】『ボイスメモ』と他のAppの同時起動時の制約事項

- 併用Appで、オーディオの再生が開始されると、『ボイスメモ』の録音は中止されます。
- iPhoneでの通話の録音はできなく設定されています。（Android機種では、標準装備のAppで録音ができますが、iPhoneの場合、不可となっています。これは、Apple本社のあるアメリカ合衆国をはじめ、通話の録音が法律で禁止されている国や州があるためです。日本では、当事者による通話の録音は法律的に認められています。）

☆Apple Watchの『ボイスメモ』を利用した通話の録音方法

- 著者が行っているiPhoneの通話内容を録音する裏ワザを紹介します。原理は非常に簡単で、iPhoneの通話設定を【スピーカー】にします（図13 B 赤□）。後は、Apple Watchの『ボイスメモ』で録音するだけです。録音データはiCloudを介して、iPhoneの『ボイスメモ』にも登録されます。



図12：『ボイスメモ』使用中に他のAppを同時起動中の操作画面



図 13：iPhone の通話内容を録音記録する方法（Apple Watch を利用）

おわりに

今回は、『コントロールセンター』に配置されるAppの中で、『計算器』と『ボイスメモ』の利用方法を紹介させていただきました。次号以降で、他のAppに関しても順次紹介させていただきます予定です。

今回使用のOS（令和4年7月5日現在）

iOS 15.5

iPadOS 15.5

watchOS 8.6